進学通信
ステップゼミナールだより
ホップ・ステップ
January 1
第147号
2019年1月5日発行

12月初め学力テストの結果をもとに志望校確認の面談、ここからの90日間が受験勉強だと。

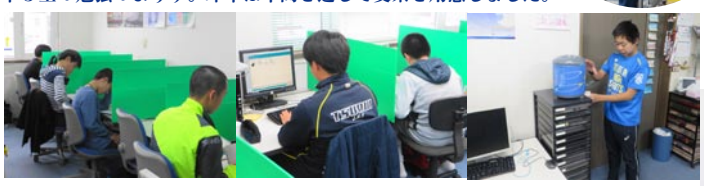
中3生は毎週のように土曜特講で頑張ってきました。その度に沢山の差入れを有難うございました。

小学生の勉強のようす。小学生は楽しそうに勉強します。

12/29 18年最後の授業が終わった後掃除を手伝ってくれました。終わった後、佐々木君が皆にジュースを！

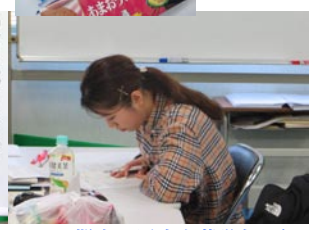
中3生の勉強のようす。昨年は年間を通して麦茶を用意しました。

沢山の差入れ有難うございました



高校生の勉強のようす。ステップゼミナールの高校生はしっかり勉強します。

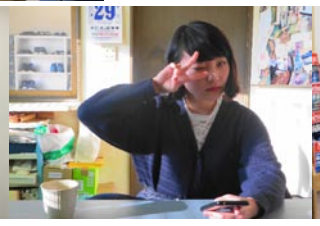
合格おめでとう！25期生湖陵高校の牛木さん、国立帯広畜産大学に合格。環境生態学が希望です。



23期生で医療大薬学部2年生の田村さん。成人式の前、1/9に試験だそうで塾で勉強。

22期生で高専卒業後、豊橋技術科学大学へ進学、今年は4年生。大学院へ進む事を決めました！

22期生で昨年高専を卒業し富士ゼロックスに入社した佐々木君。空港から塾に直行。皆に飲み物を！



21期生で群馬県立女子大学美学美術史学科4年生の増山さん。就職も決まり、春から社会人に！

21期生で釧路総合振興局に勤める小原君、昨年春に配置転換。仕事が楽しくてしょうがないそう！

17期生の小林君、北海道工業大学を卒業後、プログラマの道へ進みました。なかなか大変そうです。

14期生の工藤さん(左)と根内さん。工藤さんは年末にはオーストラリアへワーキングホリデー！

6期生の三児のパパ岩渕君が三人の子供つれて。長女、次女、そして念願の長男。お父さん大変！

4期生の早川さんが次男を連れてきた。土曜特講中の3年生の女子が大盛り上がり。勉強より・・・！

★明けましておめでとうございます★

あっという間に平成30年が終わり、お正月休みも終わり、5月には新元号となる新しい年がスタートします。

日本の歴史をみると元号が変わると社会が大きく変化してきました。今度の変化は大きな格差を作り上げる、大変な時代に突入すると言われています。

1月、2月、3月は中学生も、高校生もセンタ試験、専門学校や高校入試、大学入試に向け受験勉強のラストスパートの期間です。すでに塾の6年生3名が武修館中学と付属中学の入試を終えています。

中3生は、3月5日の入試までまだまだ時間がありますが、最後の定期テストもあります。頑張れば内申ランクが上がる可能性もあります。まだまだ諦める必要はありません。

そして4月には、それぞれ新しい学年に進級します。受験生になる中学生や高校生は4月ではなく、新しい年がスタートした1月から、受験生の自覚を持って勉強に取り組むことが大事です。

何事もはじめが肝心だと言われます。なんとなく過ごすと一年はあっという間に過ぎてしまいます。

目標が決まっている人と、そうでない人とでは同じことをやっていても結果は大きく違ってきます。

塾では昨年から極力、過保護をやめることにしました。基本的に塾のスケジュールやお知らせは、ネット上のR－GROUPを使用し自分で見てもらうことにしました。自己責任です。

第4次産業革命といわれるAIやICTが本格的にスタートします。今ある仕事の半数ががコンピュータやロボット、AIにとってかわられると言われています。ロボット、AIには負けないと言う気迫や根性や精神、目標を持って頑張りましょう。

高校入試　一般選抜日程

出願受付	1／18（金）～1／23（水）正午まで
出願状況の発表	1／25（金）10：00
出願変更受付	1／28（月）～2／1（金）16：00
出願変更状況の発表	2／13（水）
最終倍率の発表	2／27（水）　11：00
学力検査	3／5（火）
合格発表	3／18（月）10：00
学力検査の得点開示	3／19（火）～4／1（月）
2次募集出願受付	3／22（金）～3／25（月）
第2次募集合格発表	3／28（水）

高校入試まではまだ60日ほどあります。まだまだ勉強する時間は沢山あります。これから本格的にインフルエンザや風邪の時期です。健康管理に注意し頑張りましょう！

★大きな変化、必ず起きる　プラス思考で新時代を歓迎★

2019年は、従来にない大きな変化が起きた年として、日本の歴史と私たちの記憶に刻まれることになろう。

まずは、「天皇」の退位・即位の問題。今上天皇が4月30日に退位され、新天皇が5月1日に即位されて、新しい年号が始まる。天皇陛下のご存命中に新たな天皇陛下が誕生するのは、近代国家になって初めての経験（憲政史上初）だ。陛下や年号が変わると、社会の雰囲気は改まり、新しい状況が生まれ、日本の社会にも大きな変化が生まれることになる。

次が、外国人労働者の受け入れ拡大の問題。入国管理法が改正され、4月から施行される。最後に、本年から議論が本格化するとみられる憲法改正の動きである。

教育新聞特任解説委員　鈴木　崇弘

■1月の予定■

日	曜	予定
1	火	●年末・年始休み（～4日）
2	水	〃
3	木	〃
4	金	〃
5	土	●冬期講座再開（18時終）
6	日	〃（18時終）
7	月	〃（18時終）
8	火	〃（18時終）
9	水	〃（18時終）
10	木	◆道コン中1・2（16時終）
11	金	◆道コン中3（16時終）
12	土	●冬期講座（18時終）
13	日	〃（18時終）
14	月	〃（18時終）
15	火	●新学期準備休み
16	水	新学期通常授業開始　■美原3年定期
17	木	■富原3年定期
18	金	■共栄・景雲・鶴居3年定期
19	土	◆中3土曜特講　●センター試験
20	日	●センター試験
21	月	■共栄・景雲3年定期
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	◆入試直前ゼミ①
27	日	◆入試直前ゼミ②
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

センター試験まで　あと15日

公立高校入試まで　あと59日日

高専入試まで　あと44日日

在籍する生徒の所属校
小学校　愛国・鳥取西・美原・富原
中学校　美原・共栄・景雲・鳥取・鳥取西・附属・富原・別保・鶴居
高　校　湖陵・江南・北陽・明輝・高専・武修館

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP：http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

注目の人 直撃インタビュー

伊集院静氏が指摘 今の65歳から80歳が日本をダメにした

大人の男がとるべき行動や考え方を指南した人気エッセー「大人の流儀」(講談社)が刊行された。累計１８５万部を突破したシリーズの第８巻である。著者・伊集院静氏の言葉は厳しく、耳に痛いことも多い。にもかかわらず多くの人が魅了されるのは、その指摘に共感を覚えるからだろう。シリーズ当初から「大人とは」を説き続けてきた。今の日本、大人たちはどのように映っているのか。話を聞いた。

■注意することは大人の義務

――今回は「誰かを幸せにするために」というサブタイトルが付いています。どのような思いがあるのでしょうか。

サブタイトルは編集者が付けたもので、私自身は誰かを幸せにすることはできないと思っています。幸せは目に見えませんからね。ただ懸命にやっていたら誰かの役に立っているんじゃないか、というくらいのものですよ。そのことで、松井秀喜氏から聞いた印象に残っている話があります。彼が中学３年の夏休みで練習がなかったある日、コーチが炎天下でたったひとり、グラウンドを整備しているのを見たそうです。彼は、コーチは毎年こうしていたんだと思って黙って頭を下げた、という。けれどコーチ本人は「何でもないことです。選手にけがをさせたくありませんから」と涼しい顔。目に映らないところで、誰かがひたむきに何かをしている、といういい例じゃないですかね。

――「自己責任論」の風潮のせいか、最近は誰かの役に立とうという発想が減っているように感じます。

自分さえよければという人が増えているのは確かだと思う。けれど、人は誰でも自分のことがかわいいんです。それはごく当たり前のことで、そうでなければ自分を大切にしたり、向上心というものもなくなってしまう。ただ、大人になったら自分のためだけに生きるのは間違いだからね。己の幸せだけのために生きるのは私は卑しいと思う。

――こうなってしまった原因はどこにあるとお考えですか。

誤解を恐れずに言えば、今の６５歳から８０歳の人たちが悪い。全員と言わないけれど、８割が日本をダメにしたと私は思っていますよ。戦後、経済が急成長し、日本中にお金が散っていって、何も考えなくても、何もしなくても生きていけるようになった。その証拠に、昔は暮れになると地方でも都会でも必ず行き倒れがあって、大人が「おーい、行き倒れが出たぞ」と叫んでいたんですよ。今は見ないでしょう？　餓死する人がいないというのは豊かな側面ではあるけれど、精神の貧困を招くよね。お金があるということで何とか生きてこれたとしても、そのことによる一番の弊害は、他人のことはどうでもいいと思うようになったこと。だから若者を怒ることもしない。そんな大人に育てられたんだから若者だってバカになるよ。

――タレントが起こしたひき逃げ事件を目撃した女子高生らが被害者を助けずに立ち去った映像が物議をかもしました。

学校に遅刻しそうだった、びっくりしたんだろう、とか擁護する声があるらしいけど、ありえない。そういう時は、さっと倒れた人のところに行くのが人の務めなんだよ。人を助けるのは理屈じゃないんだから。先日の朝、神社に散歩に行こうとして歩いていたら、広くはない道を１７歳くらいの女の子が３人で歩いていたんだ。それで私が「道の真ん中を広がって歩くんじゃない！」って言ったんだよ。そうしたら「なんで？」だって。「昔から決まってんだ」と返したら女の子たち、「聞いたことない」「信じられなーい」って。教育してやろうなんて気持ちはなくて、単に邪魔だったから言っただけなんだけど。大人は叱らないとダメだけど、面倒だからやらなくなった。もっといえば、叱ることで相手に嫌われたくないんでしょう。若者に気を使う必要なんてないと思うけどね。

――大人に対しても注意することがあるそうですね。

数年前、仙台から電車に乗った時、私の隣の席に座った男がいて、靴を履いたままで両足を伸ばして、目の前の壁に付けたんですよ。「そこは足を置くところじゃない、下ろしなさい」と注意したのに足を下ろさない。顔を見たら真っ黒に日焼けした外国人で、どこかで見たような気がしたんですが、「ダウン、ユアー、フット」と英語でもう一度言ったら、相手は分かったのか、足を下ろして「ソーリー」と言ったんですよ。こちらは、分かればよろしい、というもんだけど、あっと気が付いた。けさ読んだ新聞にサッカーのブラジルの元代表ペレがワールドカップの特別大使をしていて被災地を訪問していると書いてあったんだな。形は違ってもみんな悲しみを背負っている

――たとえペレでもダメなものはダメ。

やっぱり、日本に来たら日本の礼節を守らなきゃ。コンビニの入り口で若者数人がしゃがんでたばこを吸っていたのを「そんなところでしゃがんでるんじゃない、入り口だろうが」と注意したこともあります。私の顔をにらみ返してきたけど消えていった。もっとも後でカミさんに、危ないからやめてくれ、と言われましたけど。それでも私は、注意することは大人の義務だと思っていますよ。

――人は何をきっかけに大人になるのでしょうか。

知らない間に大人の年齢になっちゃった、というのがほとんどだろうね。本当の大人になるには詰まるところ、他人のため、誰かのために生きなきゃいけないんだ、と分かることが必要なんだけど、それには試練がないと分からないんだな。苦しい、切ないことが人を育てるんだけど、残念ながら試練が来ないんだよ。仮に来ても面倒くさいから逃げてしまうでしょう？

――苦しいことはできれば避けたいと思ってしまいます。

試練の真っただ中にいる時に大事なのは、自分だけじゃないと気付くことですよ。私も弟が海難死したり、前のかみさんが死んだりして、そのときはなぜ弟が、なぜ若い妻がと憤り、絶望感を味わいました。けれど時間が経つと自分だけがそんな目に遭っているのではなく、かみさんや近しい人を亡くした人はいっぱいいて、形は違ってもみんな悲しみを背負っていると分かってきます。３・１１の東日本大震災では多くの人が亡くなりました。残された人は悲しくて、不安で、思い出したら泣いたりする人もいるけれど、だんだん強くなっていくんです。

■「自分のためだけに生きない」品性と品格を持つ

――ご自身が、大人の心構えとして大切にしていらっしゃることはありますか。

品性、品格ですね。それをつかめば、うまく生きていけて、わりにいい感じで死ねますよ。じゃあ品性、品格の根本は何かというと、やはり自分のためだけに生きない、ということです。例えば１００万円があって、数人で分けようとなったとき、一番困っているやつにおまえ持っていけ、と言えるかどうか。自分が困っていても、もっと困っているやつがいればそいつに分配する。これが品性ですよ。そう考えるようになったきっかけのひとつには東日本大震災を経験したことがあります。

私は仙台のど真ん中にいましたから。自分の経験はもちろん、被害を目の当たりにすれば、人はなぜ人に手を差し伸べないといけないのか分かります。人はつらいことがないと覚えないもんですよ。本当の意味で大人になるというのは、そう簡単ではありません。けれど、少なくとも３０歳も過ぎれば、若者気分を卒業して自分は大人であるという自覚、人のために、という視点を持たなきゃね。

日刊ゲンダイ　2018/12/17 聞き手＝原田かずこ

▽いじゅういん・しずか　１９５０年、山口県防府市生まれ。７２年、立教大学文学部卒業。８１年、短編小説「皐月」でデビュー。９１年「乳房」で第１２回吉川英治文学新人賞、９２年「受け月」で第１０７回直木賞、９４年「機関車先生」で第７回柴田錬三郎賞、０２年「ごろごろ」で第３６回吉川英治文学賞を受賞。１６年、紫綬褒章受章。主な著書に「白秋」「いねむり先生」「なぎさホテル」「日傘を差す女」など多数。

私もその世代で、伊集院氏の言う通りだと思ってきました。そんな思いで塾生に大変なことを（当たり前だと思う）やってもらってきました。過保護、過干渉で育ち、教育の現場も社会も建前論。しかし、現実は政治も行政も企業も教育の世界も不正だらけです。今の時代は昔よりも厳しく、当然建前論などではでは生きてはいけません。多様な価値観を持って社会に貢献できる大人になって欲しいと思います。

大樹ロケットに興味津々

釧路製作所・高専生ら開発のIST視察

釧路工業高等専門学校と釧路製作所の関係者54人が15日、十勝管内大樹町を訪れ、ロケット開発に取り組むインターステラテクノロジズ（IST）の発射場などを見学した。

同製作所はISTと協力関係にあり、出資や実験装置の製造などを手掛けている。ISTが2020年以降に打ち上げを目指す人工衛星用ロケット「ZERO」の発射台も製造する予定で、釧路高専の学生もその「ロケットランチャープロジェクト」に携わっている。

この日は同校の学生39人に小林校長ら教員を含む計49人、同製作所の5人が大樹町宇宙交流センターSORA（そら）を訪れた。稲川社長がISTの進めている小型ロケットの製造を映像を交えて紹介し、「潤沢な資金はないが、試行錯誤しながら挑戦している」などと話した。

その後、生徒らは浜大樹のロケット発射場を見学。高度100㌔の宇宙空間を目指し、現在開発中の観測ロケット「MOMO（モモ）」3号機などについて説明を受けた。

今夏にISTで2週間のインターンシップを行った電子工学科4年の山口蒔史さんは「将来はここで働けたら」と意欲を新たに。発足したばかりの「ロケットランチャープロジェクト同好会」（部員24人）の部長を務める機械工学科4年の橋本侑茉さんは「実際に現場に来れて感動した。稲川社長の話を聞けたことはこれからの活力になる」と目を輝かせていた。

技術者の〝卵〟たちと交流した稲川社長は「若い人たちは吸収力が素晴らしい。ぜひISTに協力してほしい」と期待を寄せた。（十勝毎日新聞社）

12月25日の日経新聞の全面に高専に関する記事が掲載（別紙）されました。塾では、これからは理系の時代、技術の時代になると想定し興味のある生徒には高専を勧めてきました。いま、社会が、世界が高専に注目していることがこの記事でよく分かります。理系社会となるいま男女の区別なく高専を目指すのもいいのでは！